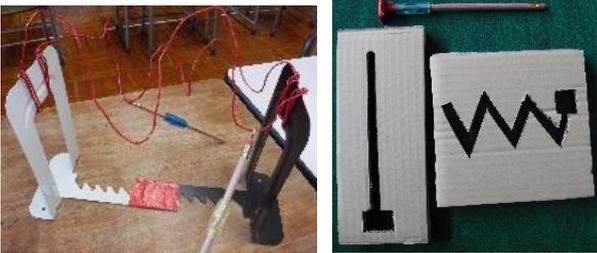


教材・支援機器活用実践事例

【日常生活に必要な基本的な動作の指導

～手指の巧緻性と手元に注目して取り組む力の向上～】

	実施年度	平成 30 年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	『おべんきょう』をしよう!	
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が手元に注目して丁寧に操作ができるようにする。 ・手首の動かし方や、棒の握り方を児童自身が意識して取り組めるようにする。 	
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手の動かし方を意識し、対象に注目しながら、棒を動かすことができる。 	
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校・重複障がい学級・小学部	
	対象の障がい	知的障がい、肢体不自由	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢を保ったり、物や活動に応じて手指を動かしたり、力加減を調整したりすることが難しい。 ・集中を継続することが難しく、物の扱いが雑になることがある。 ・手指の巧緻性と手元に注目して取り組む力の向上を図り、基本的動作における身体の使い方を学ぶ必要がある。 	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>[左]よく見て通すイライラゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆持ちでグリップを握る。 ・針金をよく見て通していく。 <p>[右]棒通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆持ちでグリップを握る。 ・小指のあたりを段ボールに付けることを意識して、手元をよく見て動かす。 	<p>【画像】</p> 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・右手は鉛筆持ちをして、左手で教材を押さえて操作することができる。 ・対象を注目して、ゆっくり、丁寧に動かすことができる。 ・動きのある操作の中で、手首や指を使うことができる。 ・[右]右手小指あたりを付けたまま動かすことで書字に繋げることができる。 	
授業における支援 ・教材の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・書字につながるように、鉛筆にグリップを付けた。 ・手元に注目して取り組めるように、螺旋状や波線など、動きが出る作りにした。 ・握り方を身に付けられるように始めは簡単な動きから取り組んだ。 ・「見て。」「ゆっくり。」と手元に注目したり、落ち着いて取り組んだりできる言葉掛けをした。 		
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方や操作の仕方が分かり、正しい持ち方になるようにグリップを持ち替えたり、左手を添えたりすることができるようになった。 ・早く終わらせたい気持ちから力ずくで動かすことがあったが、ゆっくり動かすことでスムーズに動かせることに気付き、手元に注目して落ち着いて取り組むようになった。 ・書字では、鉛筆の持ち方や手の使い方が以前よりも滑らかになり、手元に注目してゆっくり書くことで、なぞり書きが上手になった。 ・はさみを使った制作でも、手元に注目することが身に付いてきたと感じる。 		